

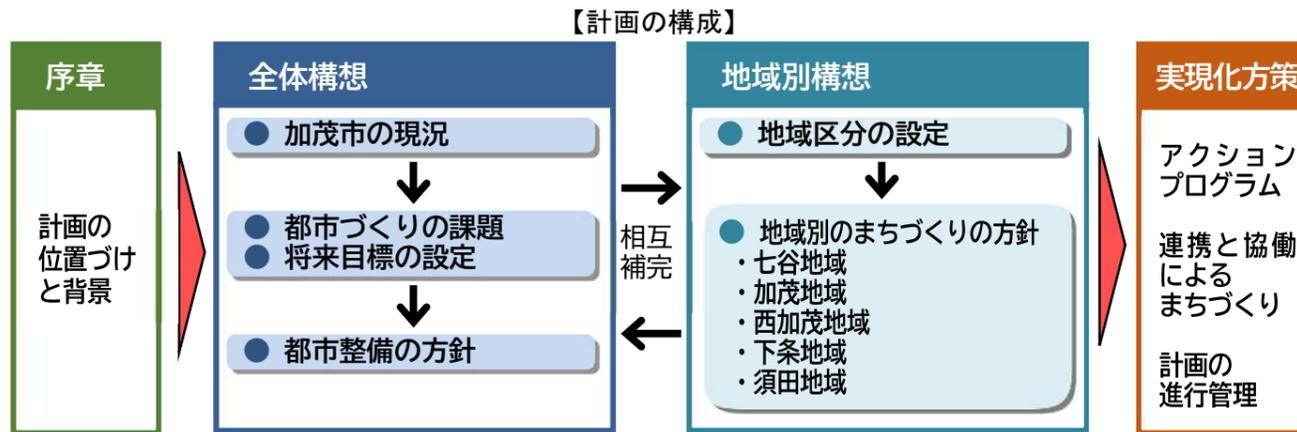
「加茂市都市計画マスタープラン」地域別懇談会（説明会）資料 【七谷地域】

1. 都市計画マスタープランとは

- 都市計画マスタープランは、都市計画法第 18 条の 2 に基づく「市町村の都市計画に関する基本的な方針」として定めるものです。
- 都市計画マスタープランは、おおむね 20 年後の都市の姿を展望し、「加茂市総合計画」に掲げた将来像を実現するため、都市計画行政に関する長期的な指針として活用するものです。

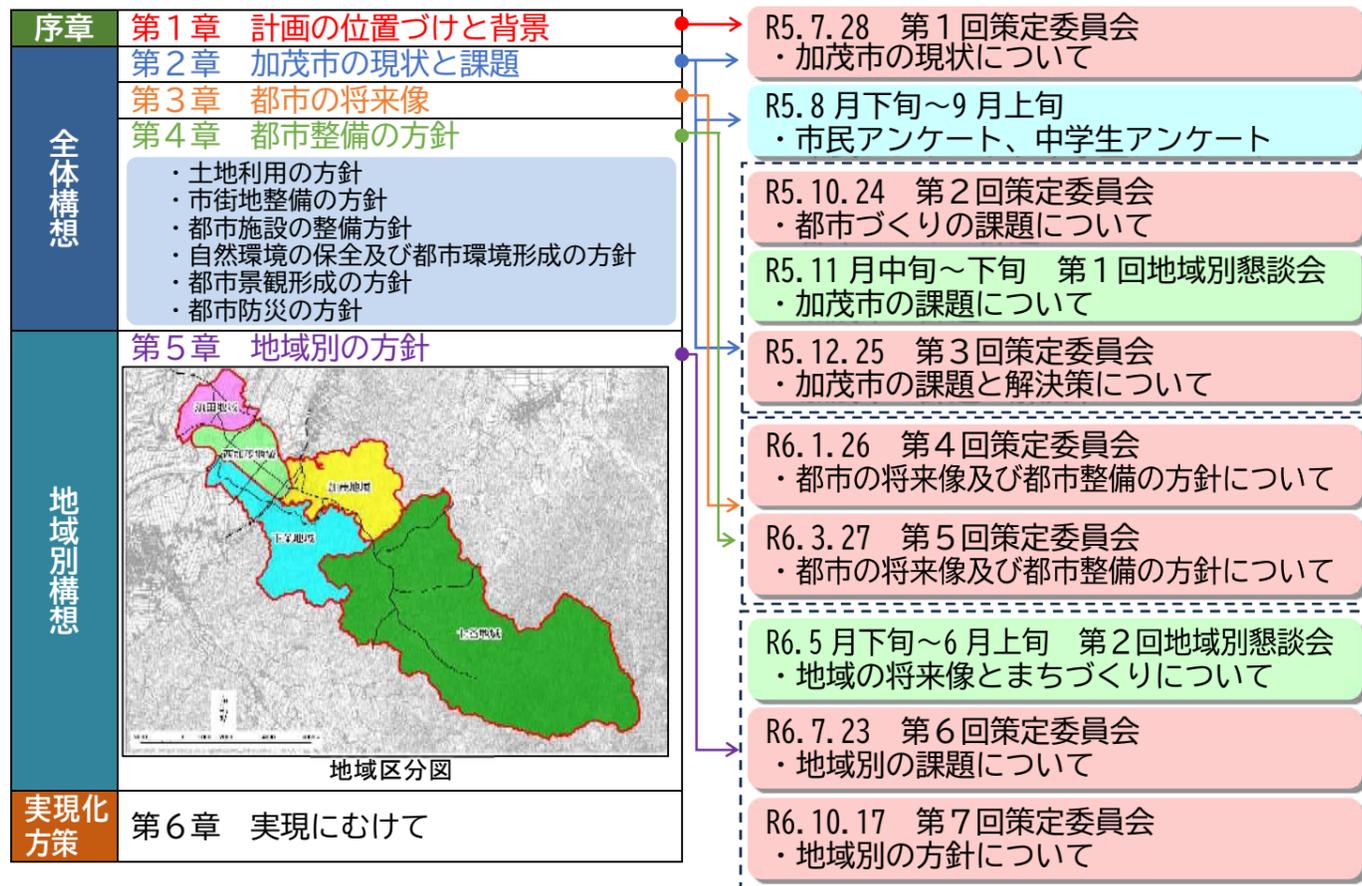
2. 都市計画マスタープランの構成

- 都市計画マスタープランは、下図に示すとおり、「序章」、「全体構想」、「地域別構想」、「実現化方策」で構成されます。



3. 策定に係るこれまでの経緯

- 都市計画マスタープランは、これまで策定委員会（7回）、地域別懇談会（2回）、アンケート調査を実施し、その審議内容及び意見を踏まえ、計画を検討してきました。



4. 加茂市全体の課題

- 人口などの加茂市の現状、「加茂市総合計画」などの上位・関連計画の方向性、アンケート調査などの市民意向を踏まえ、都市づくりにおける加茂市全体の課題は下表に整理します。

人口・産業・土地利用等	<ul style="list-style-type: none"> ・人口密度の低下による各種サービスの低下が懸念されるため、無秩序な住宅地の拡大抑制やまちなかへの居住促進、都市機能の集積 ・人口減少に歯止めをかけ、子どもから高齢者までが魅力を感じる生活環境の維持・向上 ・人口減少や高齢化の更なる進行を踏まえた住宅の適切な維持管理への対応 ・若者等が選択できる多様な働き場の確保 ・農地の保全や農業振興、森林環境の保全、有害鳥獣対策 ・伝統産業の継承のほか、製造業等における生産性の維持・向上に寄与する工業振興 ・まちなかの賑わいの創出に向けた商業等の都市機能の充実 ・商店街の活性化 ・土地利用区分（住宅と農地等）の明確化 ・加茂市の発展に寄与する都市的な土地利用の推進 ・人口減少や高齢化の更なる進行を踏まえた空き家・空き地対策の充実 ・デジタル技術の活用による課題解決
都市施設	<ul style="list-style-type: none"> ・長期未着手となっている都市計画道路の整備促進や見直しの検討 ・冬期間を含めた通年の安全が確保された道路環境づくり ・市内外をネットワークする幹線道路の適切な維持管理 ・歩行者目線による道路環境の形成 ・バリアフリー化など、高齢者、障がい者に配慮した道路整備 ・まちなかへのアクセシビリティの向上 ・人口密度の状況等を踏まえた都市公園の整備、集約・再編や機能向上 ・子どもから高齢者まで誰もが楽しく利用できる公園・緑地の確保 ・汚水処理（公共下水道・合併処理槽）の整備促進 ・施設分類・機能に応じた公共施設の適正配置や集約再編 ・脱炭素社会の構築に向けた都市環境の形成 ・少子高齢化に対応した子育て施設や医療施設・体制の充実 ・野生鳥獣による森林・農作物被害対策の強化
公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の公共交通空白地ゼロの維持 ・利用者増加を図るための公共交通の利用促進施策の実施
歴史・文化・観光	<ul style="list-style-type: none"> ・加茂市のシンボルとなる水辺景観や歴史・文化資源の保全 ・歴史・文化資源を活かした観光振興やまちなかづくりの推進 ・観光施設の機能維持や周辺環境の維持・向上 ・景観に影響を及ぼす空き家・空き地等の改善
災害	<ul style="list-style-type: none"> ・避難施設の防災機能の維持向上 ・早期避難のための取組みの充実 ・防災施設の整備促進や防災設備・備品の充実 ・日常生活に欠かせないライフラインの強化 ・安全・安心な住まい方、土地利用の規制・誘導 ・災害に備えた防災拠点となる公園の確保や狭い道路の解消
財政	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設の整備等の財源確保

5. 将来都市像

- 「都市づくりの課題」や加茂市総合計画の将来像（「笑顔あふれるまち 加茂」）を踏まえ、加茂市の目指す「将来都市像」を以下のように定めます。

【加茂市の将来都市像（案）】

**愛着と誇りを次代へつなぐ
居心地よく笑顔あふれるまち 加茂**

6. 都市づくりの目標

- 加茂市の将来都市像を実現するため、都市づくりの目標を次のように定めます。

目標 1 持続的発展が可能なまちづくり

- 無秩序な市街地の拡大を抑制し、中心市街地への都市機能・居住の誘導と市域全体をつなぐ交通ネットワークの構築や公共交通の充実により、コンパクトで効率的なまちづくりを推進します。さらに、加茂駅及び商店街周辺でのエリアプラットフォーム構築により、歩いて楽しいウォーカブルなまちづくりを推進します。
- 既存の都市施設や空き家・空き地の有効活用、公共施設の適正配置や再編などを進めるとともに、中心市街地・郊外・集落・農地・森林などの土地利用区分を明確化し、選択と集中によるメリハリの利いた、持続的発展が可能なまちづくりを推進します。

目標 2 愛着と誇りを育むまちづくり

- 粟ヶ岳・加茂川・加茂山公園・優良農地などの豊かな自然環境、北越の小京都と称される歴史・文化資源、地域の祭り・イベントなど、加茂市の美しい郷土を守り育てるとともに、産業や観光振興への活用を推進します。
- 賑わいを創出する“中心都市拠点”、多様な働く場の確保に向けた“工業拠点”、交流を促進する“自然レクリエーション交流拠点”などの拠点を形成し、発展させることにより、市民が郷土に愛着と誇りを持ち、また、来訪者が魅力を感じ訪れたいまちづくりを推進します。

目標 3 安全・安心なまちづくり

- 加茂市では、平野部で洪水浸水想定区域が広範囲に指定されているほか、山間部などで土砂災害警戒区域が指定されており、災害に強いまちの形成が重要です。頻発化・激甚化する災害に備えるため、防災・減災対策を強化するとともに、自助・共助・公助の考え方に基づく取組の充実により、市民が安全・安心に暮らし続けられるまちづくりを推進します。

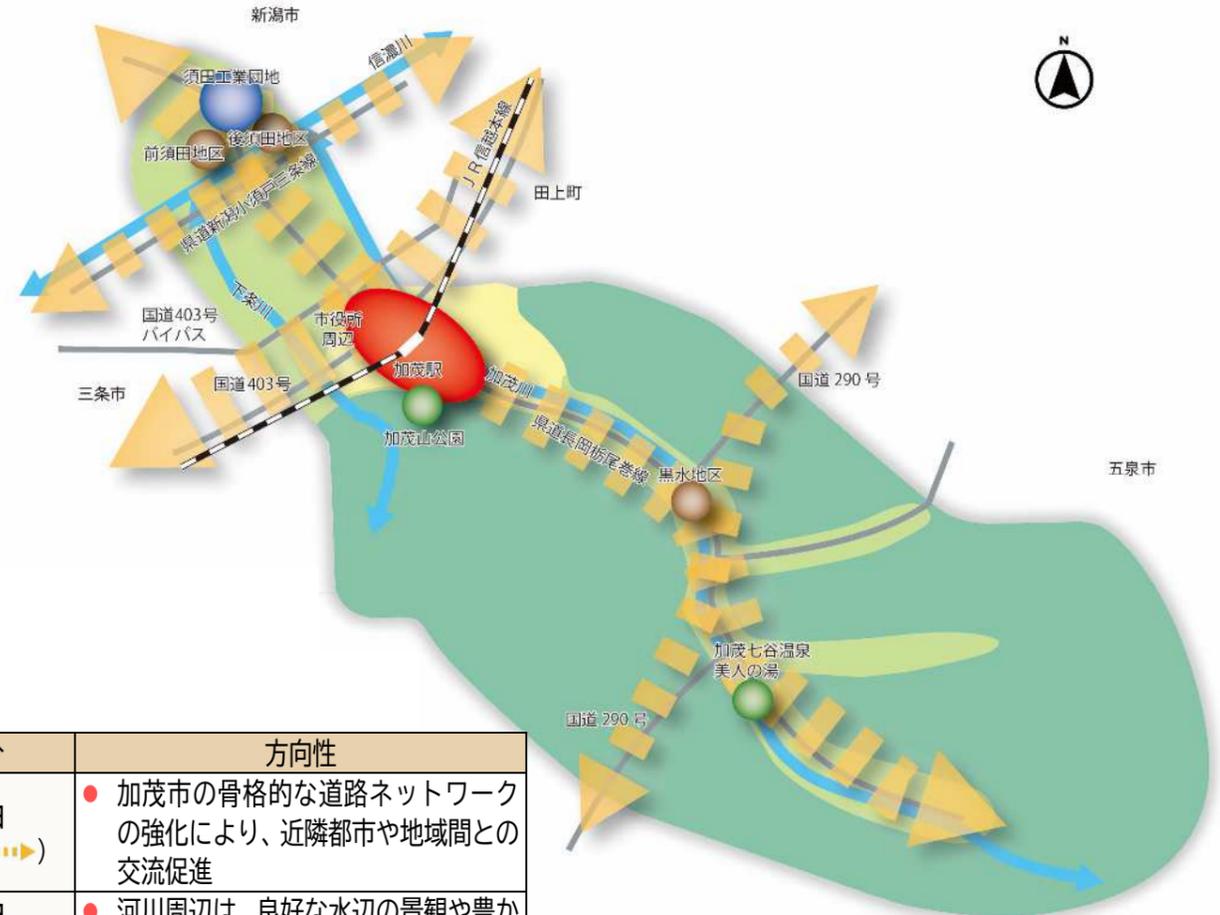
目標 4 連携と協働によるまちづくり

- 加茂市のまちづくりを担う人材の発掘・育成などに努めながら、多様な主体の垣根を越えて、市民、事業者、教育機関などと行政の連携と協働によるまちづくりを推進します。
- 国や県をはじめ、県央圏域での位置づけを踏まえた産業・観光、道路・交通ネットワークなどの分野において、隣接市町との連携と協働によるまちづくりを推進します。

7. 将来都市構造

- 加茂市の将来都市構造を、大きな土地利用の区分を示す「エリア」、都市づくりの骨格となる「拠点」、他都市や地域間を結び交流や連携を促進する道路・鉄道及び都市の骨格を形成する河川を「軸」で示します。

【将来都市構造図】



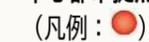
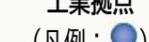
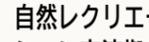
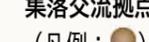
【軸】

区分	方向性
交通軸 (凡例: )	● 加茂市の骨格的な道路ネットワークの強化により、近隣都市や地域間との交流促進
河川軸 (凡例: )	● 河川周辺は、良好な水辺の景観や豊かな生態系に配慮しながら保全

【エリア】

区分	方向性
市街地エリア (凡例: )	<ul style="list-style-type: none"> ● 無秩序な市街地の拡大を抑制したコンパクトな市街地を形成し、防災面や環境面にも配慮した計画的な土地利用 ● 道路、公園などの既存の都市施設、空き家や空き地などを有効に活用するとともに、市街地の規模や役割に応じた効率的な土地利用
農地・集落エリア (凡例: )	<ul style="list-style-type: none"> ● 優良農地は、多面的機能を有していることから、将来にわたり保全 ● 農村地域の集落地は、適切な開発の規制、誘導を行い、周辺環境と調和したゆとりのある居住環境及び営農環境の維持、形成
山林エリア (凡例: )	● 猿毛山などの市街地に近接する里山や粟ヶ岳などの良好な自然環境は、生態系に配慮しながら将来にわたり保全

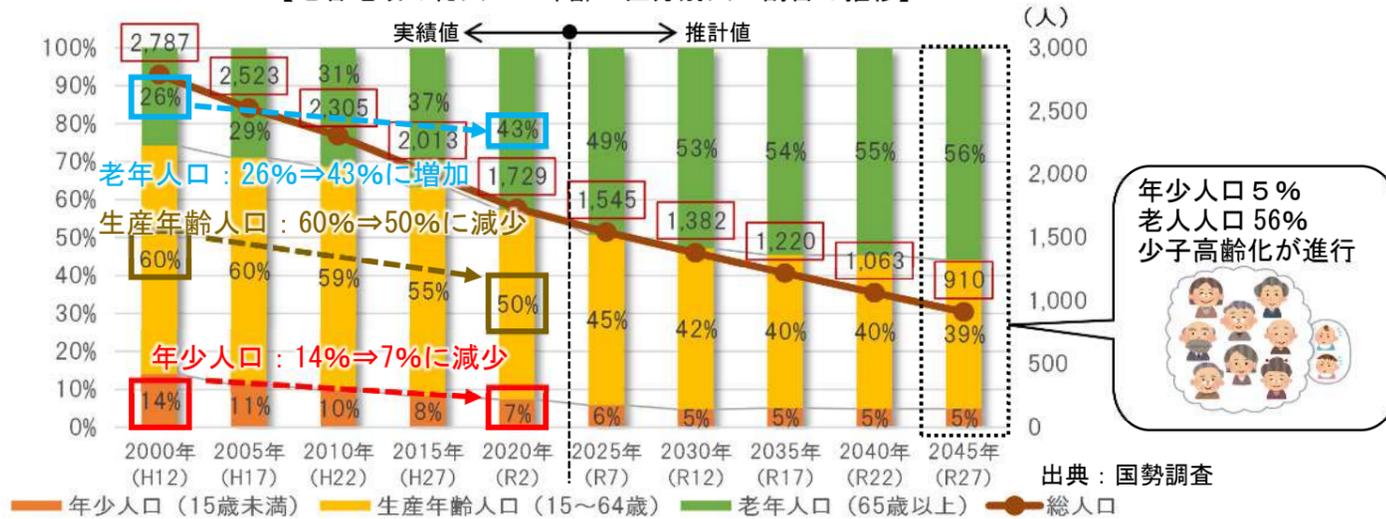
【拠点】

区分	方向性
中心都市拠点 (凡例: )	● 商業機能や行政、事業所などの業務機能や医療・福祉機能の集積を図り、賑わいの創出や生活利便性の向上
工業拠点 (凡例: )	● 加茂市の工業生産活動の中心となる工場、事業所の集積を図り、産業の発展や機能維持
自然レクリエーション交流拠点 (凡例: )	● 市民や市外の来訪者が自然環境とふれあえる場、レクリエーションの拠点として、機能の維持・充実を図り、人々の交流促進
集落交流拠点 (凡例: )	● 地域の交流機能や生活機能の維持・充実を図り、地域の交流促進

「加茂市都市計画マスタープラン」地域別懇談会（説明会）資料 【七谷地域】

8. 七谷地域の概況（人口、土地利用、住民意向）

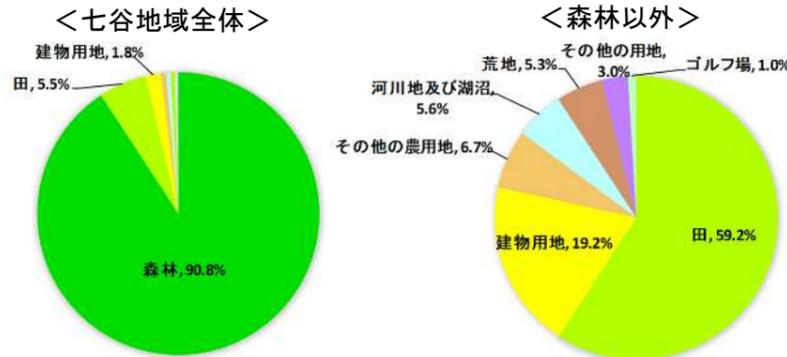
【七谷地域の総人口・年齢3区分別人口割合の推移】



※国立社会保障人口問題研究所の仮定値を使用し独自に推計

年少人口 5%
老年人口 56%
少子高齢化が進行

【七谷地域の土地利用状況】



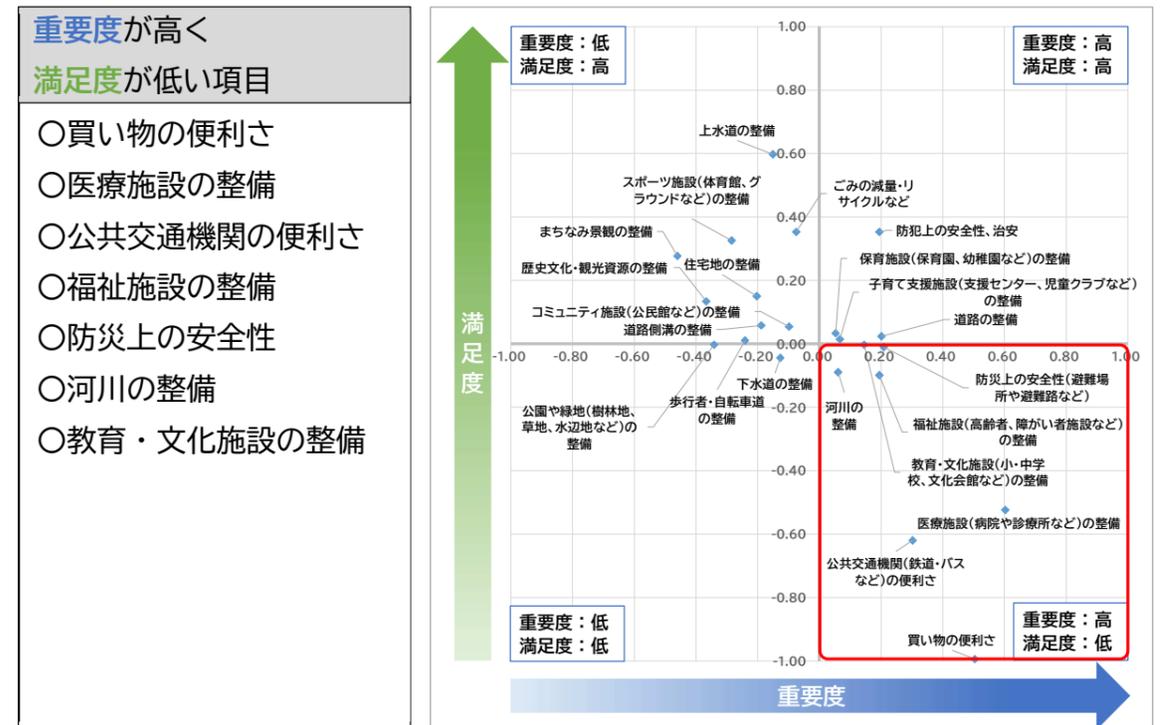
- 土地利用については、森林が約9割を占めて最も多く、次いで田が5.5%となっており、森林の割合は他地域と比較すると最も高くなっています。
- 森林以外の土地利用では、田が約6割を占め、建物用地が約2割となっています。

■七谷地域の第1回、第2回地域別懇談会での主な意見を以下に整理します。 出典：国土数値情報

土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ●住宅が少ない ●大型商業施設やコンビニ、スーパーがない ●企業誘致する土地として活用 ●農業の担い手不足 ●耕作放棄地増加に対する対策が必要 ●森林整備が遅れている 	防災	<ul style="list-style-type: none"> ●洪水の恐れ、河川改修が必要 ●土砂災害への避難体制の構築対策 ●高齢化により除雪や屋根雪下ろしなどの対応が不安 ●災害時に避難場所へ行けない不安がある ●地区ごとで組織される消防団の活用 ●七谷コミュニティセンターは浸水時には使えない
都市施設	<ul style="list-style-type: none"> ●道路整備が遅れている ●道が狭い、道路の整備（市道） ●雪道ではスクールバスが通りにくい ●道路ネットワークが十分ではない ●バスの本数が少ない ●夜間の公共交通手段がない ●大きな公園が不足 	自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ●獣害対策の強化 ●耕作放棄地の増加により、人と鳥獣の住むエリアが近接している ●水資源が活用されていない ●自然を観光資源に活かされていない
市街地整備	<ul style="list-style-type: none"> ●空き家が増えているが空き家の撤去や整備が難しい 	その他	<ul style="list-style-type: none"> ●人口減少、高齢化率が高い ●魅力不足のため、転出が多く移住が少ない ●働く場所がない ●冬鳥越スキーガーデンが十分に活用されていない ●ランデブーポイントは残してほしい
景観	<ul style="list-style-type: none"> ●七谷の産業歴史、文化を残す（紙すき、すみやき、くずこり） ●七谷の景色、景観をもっと大勢の人に見てもらえるような取組が必要 		

■「加茂市都市計画マスタープラン」策定のために実施された市民アンケート調査（生活環境の重要度・満足度）の結果を以下に整理します。（七谷地域の結果のみ抽出）

【市民アンケート調査（生活環境の重要度・満足度）】



9. 七谷地域の課題

■七谷地域の現状や住民意向を踏まえ、特に重要な課題を以下に整理します。

① 地域資源を守り活かした交流の促進、安全で快適な住環境の維持	<ul style="list-style-type: none"> ●水源のかん養や土砂災害防止の機能を持つ里山の保全 ●うるおいのある地域を形成するための水源池周辺の保全・活用の検討 ●中心部や周辺自治体へのアクセス性の向上 ●地域のにぎわい創出に向けた、粟ヶ岳県民休養地、冬鳥越スキーガーデン、加茂七谷温泉美人の湯などの地域資源の有効活用や強化 ●住民が安全・安心に暮らすための加茂川流域における流域治水対策、土砂災害警戒区域における土砂災害の軽減対策
② 美しい原風景の継承と農業の振興による地域の魅力向上	<ul style="list-style-type: none"> ●大谷地区、高柳地区、宮寄上地区などの集落と田園が調和する美しい原風景の継承、田園景観の保全 ●農業の担い手育成や耕作放棄地の活用などの対策
③ 既存施設を活かした住民が交流できる地域拠点の創造	<ul style="list-style-type: none"> ●生活に必要な都市機能を集約した地域拠点の形成 ●人口減少や少子高齢化、住民ニーズを踏まえた公共施設等の機能再編や利活用の検討 ●身近な買い物施設の不足を改善する代替や補完できるようなサービスの検討

10. 七谷地域の将来像、基本目標、方針図

将来像

水と緑が美しい七つの谷の魅力を活かし人や地域の広域的な交流が盛んなまち

基本目標 水と緑が美しい七つの谷の保全と地域資源を活かした交流の促進 良好な田園景観の保全や活用と農業振興による地域の魅力向上 既存ストックの集約による地域コミュニティの交流拠点の形成と生活利便性の向上

